

調査対象：参加者（42人 学生36名、職員6名）

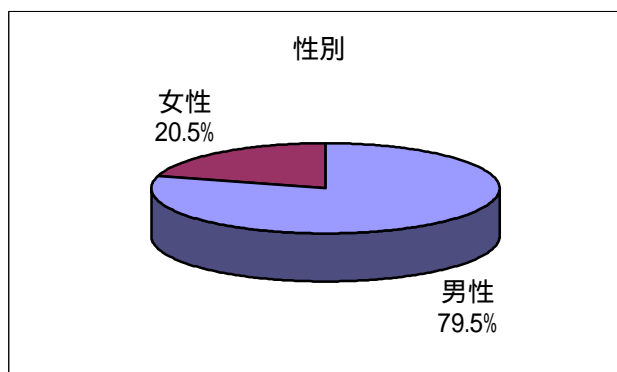
調査方法：講演会終了後、教室にて回収

有効回答数：39件 回答率：92.9%

1. 参加者の属性について

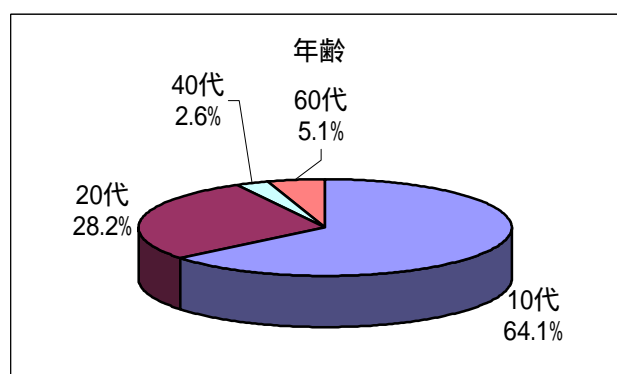
性別

	性別	人数	%
1	男性	31	79.5%
2	女性	8	20.5%
3	未記入	0	0.0%
	総計	39	100.0%



年齢

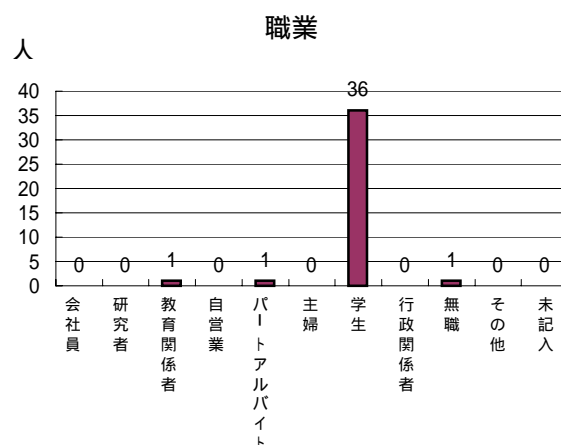
	回答	人数	%
1	10代	25	64.1%
2	20代	11	28.2%
3	30代	0	0.0%
4	40代	1	2.6%
5	50代	0	0.0%
6	60代	2	5.1%
7	70代以上	0	0.0%
8	未記入	0	0.0%
	総計	39	100.0%



2. 参加者の属性について

職業

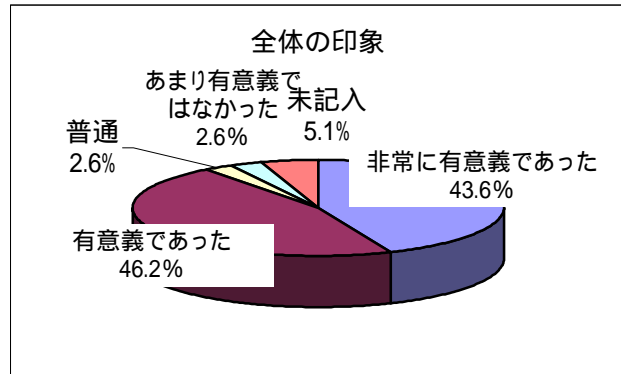
	回答	人数	%
1	会社員	0	0.0%
2	研究者	0	0.0%
3	教育関係者	1	2.6%
4	自営業	0	0.0%
5	パート、アルバイト	1	2.6%
6	主婦	0	0.0%
7	学生	36	92.3%
8	行政関係者	0	0.0%
9	無職	1	2.6%
10	その他	0	0.0%
11	未記入	0	0.0%
	総計	39	100.0%



3.本講演会についてお答えください。

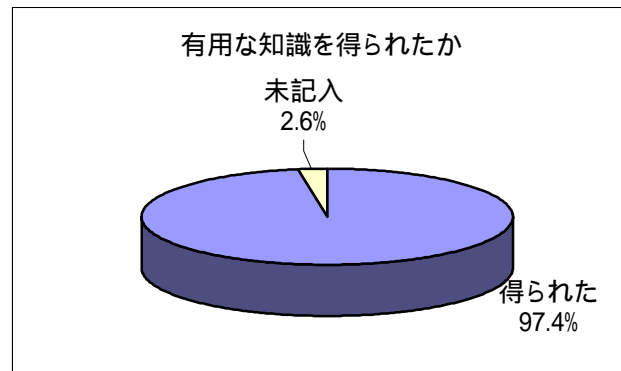
(1)全体の印象について

	回答	人数	%
1	非常に有意義であった	17	43.6%
2	有意義であった	18	46.2%
3	普通	1	2.6%
4	あまり有意義ではなかった	1	2.6%
5	全く有意義でなかった	0	0.0%
6	未記入	2	5.1%
総計		39	100.0%



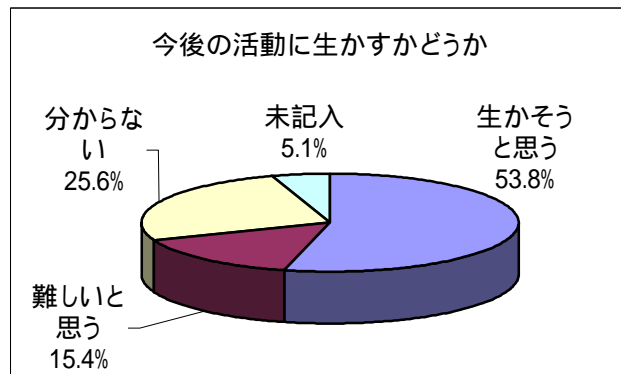
(2)本講演で有用な知識が得られましたか？

	回答	人数	%
1	得られた	38	97.4%
2	得られなかった	0	0.0%
3	未記入	1	2.6%
総計		39	100.0%



(3)(2)で有用な知識が得られたとお答えの方へ、
本講演で得られた知識を今後の仕事や地域での活動などに生かそうと思いますか？

	回答	人数	%
1	生かそうと思う	21	53.8%
2	難しいと思う	6	15.4%
3	分からない	10	25.6%
4	未記入	2	5.1%
総計		39	100.0%



4. 今回の講義で新に学んだ(知った)こと

回答

- ・2000年以前の裁判では、被害者に最低限の情報すらおしえてもらえなかった。
- ・事件によって被害者より加害者の方が丁寧にあつかわれた。
- ・日本の法律が被害者の事を全く考えていないことはわかっていたつもりだったが、ここまでひどいとは知らなかった。
- ・被害者はいつまでも被害者であり、やっぱり事件が起きて知らされた直後は理解、納得いかになく逃避してしまうんだと改めて感じた。
- ・裁判は被害者のためにあるものではない。
- ・犯罪にあって亡くなった被害者は、遺族がどんなに反対しても司法解剖されることが分かった。
- ・解剖がすむとお金を払って引き取りに行かないとだめやったことと裁判所の実態。
- ・裁判所がここまで被害者にひどい態度をとる事
- ・裁判では、被害者の家族の言葉が全く届かない辛さというものを知った。
- ・被害者には、することがあまりないこと。
- ・裁判というのが、どういった形で行われていたのか思っていたものとは違いました。日本の裁判はどこか見直すべきところはあると思った。
- ・こういう被害はいろんなところで起こっているのを知りました。
- ・犯罪は、人ごとだと思っていたけど、伊藤さんの話を聞いてすごく身近に感じました。
- ・裁判官は被害者の敵のようにもなるのだと言うこと。
- ・残された遺族の気持ちと命の大切さを学びました。
- ・裁判所では被害者のことは全くなにもしてくれない事を知りました。
- ・犯罪被害者の方々の今、現在に置かれている状況の悪さ。改めて命の大切さを学びました。
- ・被害者の遺族は悲しいのに、マスコミはしつこく事情を聞いてくる。正しいと思うけど残酷だと思いました。
- ・昔の裁判は、被害者の主張が一つも通らずに、まるで被害者の敵になっていたけど、今は大勢の被害者の言葉で被害者の主張ができるようになったこと。自分自身がいつ被害者になるかわからないと思った。そして、自分も家族も十分に気を付ける必要があると思われた。
- ・今回の講義で犯罪被害者に与えられるべき当然の権利や情報が与えられず、迫害に近い扱いを受けており、それが近年まで続いていたということを知りました。
- ・今回の講義を聞く前から被害者やその家族に対する配慮がないこと聞いていたが、具体的なことは今回が初めてだった。裁判は確かに公平に行わなければならないと私も思う。けれど遺族のことを傍聴人と言われるのには驚きました。
- ・被害者に対しての国の制度の矛盾を知りました。
- ・裁判は被害者のためにあるのではないということ。被害者側が莫大なお金を支払わなければならないということ。
- ・今まで裁判で被害者の席には壁があって被害者の意見など、あまり取り入れてもらえない事は知っていたが、それが取り外されてきた事は初めて知った。
- ・被害者に渡される遺族給付金の少なさ、命の大切さについて知った。懸賞金を被害者が出さないとなかなか犯人が逮捕されないのは悲しい事実だと思います。
- ・被害者の立場になったら、頭の中が真っ白になってしまうことがわかった。
- ・日本の司法のあり方が被害者に対して非常に冷たいと言うことが、この人形劇でわかりました。
- ・自分の知らない所ですごく複雑なことが起こっているのがわかった。
- ・一つの命を失ったことで人生が嫌になったりしてしまうので、話を聞いてあげることが大切だと思った。
- ・被害者は被害を受けている側なのに、意外にも冷たい対応があったり被害を受けているのをとても厳しいと思った。
- ・被害者も法廷に参加できることを今回知りました。
- ・裁判官や弁護人は必ずしも被害者の味方ではない。裁判は被害者のために行われているのではない。
- ・加害者 > 被害者 という形式でしか裁判が行われないことは知っていたが、それ以上に奥深く聞いていると日本の司法の腐りがよく分かった。
- ・裁判は正しいことを言ってくれない。
- ・被害者は一人ですまず、家族にも被害がでてきて家族崩壊をおこす可能性があるということ。

5. 犯罪被害者等について

(1) 犯罪被害者の現状について、どう思いますか？

回答

- ・興味本位のマスコミ関係の情報が先行し、被害者の悲痛な心情を逆なでしていることや人の痛みを理解できない世情が蔓延していることが悲しい。まず経済的セーフティネットの必要性。
- ・現状の厳しさを初めて知りました。特に精神的な痛みは、経験者でないと理解しにくい。
- ・日本の警察や司法制度の不備により振り回されてしまう。二次的被害の精神的な痛みはニュースでは伝えきれていない。マスコミ自身が加害者に回っていることを世間に気づかれないように報道していると気づいた。
- ・一番辛いのは被害者なのに被害者が一番粗末にあつかわれていることに驚いた。
- ・ものすごくひどい扱いをされていて辛く思った。
- ・日本はもうちょっと被害者の事を考えるべきだと思う。
- ・考えられていたり、そうではなかったりだと思います。残された家族の想いを全てくみ取れてないのが現状だと思います。
- ・被害者が嫌な想いをする事ばかりの現状はなんとかするべきだと思う。
- ・被害者が納得いく司法ではないことが分かった。
- ・おかしいと思います。家族を亡くしただけでも辛いことなのに、なんでこんなにも被害者が苦勞するのかと思いました。
- ・昔よりは良くなっていると思いますが、被害者の方達が苦勞しなければならないのが、変だと思いました。
- ・とても辛さがあった。
- ・たった一つの出来事で、残された家族の方々にもたくさんの辛いことが起こりかわいそうだと思った。
- ・被害者がかわいそうと思いました。
- ・犯罪被害者は、裁判では被害者が報われ、加害者にはそれなりの罰を与えるものと考えているはずなのに、とても裁判が被害者のためにあるとは思えない。
- ・人の命はなににも変えられないもので、加害者によって亡くされた命は、何年たっても怒り悲しみを背負って生きていく事はつらい以外の言葉は見つからないと思います。
- ・何も悪くない被害者がマスコミに追われたり、解剖させられるお金を自分たちが払わなければいけなかったり、すごく不公平だと思った。
- ・家族を事件で亡くすと気が動転して、いろんな発言などにより家族とうまく行かなくなり、家庭崩壊になってしまうこともあるという現実があることを知った。お互い辛いことだけど、我慢もしないといけなかった。
- ・とても辛く悲しく犯罪を憎んでいる、そういった現状だと思った。
- ・加害者を尊重しすぎだと思う。
- ・いつ犯罪の被害者になってしまうかなんてわからないし、防ぐ事なんてできません。まだ被害者になっていない人も被害者と共に、法律という根本的な事から直して行く必要を感じました。
- ・許せない・悲しいと思います。
- ・自分自身が被害者ではない以上はすべての事をわかるわけではないけど、今回の話やビデオ等を見て被害者の扱いがひどいことに驚いた。
- ・犯罪被害に遭われた人や家族に対して周囲の人間や国が冷たくマスコミの対応も冷やかだと思いました。
- ・裁判は事件のことを公平に判断を下す場だけれど、それによって起こる二次被害などに無関心すぎると思った。マスコミもやっぱり全てを報道しているわけではない。特に自分たちの非になるようなことは出さないなど改めて思った。
- ・全てが残酷で情のかけらも感じませんでした。
- ・家族を奪われただけで深い悲しみに落とされているのに、メディアなどの心ない仕打ちを受けなければならないのはおかしい。
- ・昔はあまり良くなかったと思います。今はだんだん良くなってきていると思います。
- ・国や法律はまだ被害者想いではなく、被害者が法律を変えていかなければならないという現実がとても悲しく思った。
- ・不公平だと思う。
- ・被害を受けているのに司法に介入できないことがおかしい。

回答

- ・すごく悲しいことだと思う。人の人生をこわす権利は誰にもないと思った。
- ・裁判をしても自分の思っている通りにならない。けど、自分ではどうしようもできない気持ちで毎日が暗くなる一方だと思った。
- ・犯罪被害者の気持ちをもっと考えなければならないと思った。
- ・犯罪被害者の現状について今回の講演会だけではまだまだわからないことが多くよくわかりません。
- ・テレビや新聞などでは、あんまり本当の事実が報道されず被害者に辛いのが現状だと思った。
- ・被害者軽視の現状では単純に考えても非常に厳しいものだと思う。
- ・どれだけ辛い思いをしても最後には裏切られるんだと分かった。
- ・怒りや悲しみがごっちゃになって八つ当たりで発展するということ。

(2) (1)に対して、どのようにすればよいと思いますか？

回答

- ・人の痛みが理解できる家庭教育や社会啓発が必要である。
- ・励ましの言葉も、慰めの言葉も難しいと思いました。裁判の進め方にも疑問を抱きました。
- ・ニュースとして大きく取り上げようとするれば、事件の事実紹介だけでは時間もたず、犯罪加害者が不明あるいは加害者へのコメントを取ることができないため、被害者側へのインタビューが増えてしまうマスコミの報道スタイルに問題があると感じる。報道の自由等の意見もあるが、規制すべき。
- ・もっと被害者が納得できるように警察や裁判所が対応できれば良いと思う。
- ・もっと日本は罪に対する気持ちを直すということと、アメリカなどの刑をならうべきだと思う。
- ・マスコミやメディアにもうちょっとプライバシーを考えさせるべき。
- ・被害者にきびしく加害者に優しいをやめる。
- ・日本のみんながもっと国に主張しなければならぬと思う。
- ・知らない人たちに知ってもらうことが一番大事なかなと思います。
- ・国がもっと国民の事を考え、対応しなければいけないと思いました。
- ・あまり思い詰めないようにする。
- ・具体的にはわからないがマスコミや裁判の面で考えれば国そのものがだめだと思った。
- ・マスコミを味方にする。
- ・裁判は、被害者の立場を考えたものにすべきだ。
- ・毎日、その人の事を思い続け、愛する事が大切だと思いました。
- ・裁判員の方がもっと被害者の立場に立たないといけなかった。
- ・法を改正し歳や人数に関係なく人を殺したら死刑にするべきだと思う。判決が甘いから裁判が減らないのも現実だと思う。
- ・今後このような事が起こらないためにも、厳しく取り締まりをして犯罪を減らしてゆけばよいと思います。
- ・もっと被害者も裁判に加われればよいと思います。
- ・言い方が悪いかもしれませんが、私自身の命も私の周りの大切な人達の命もいつなくなってしまうかはわかりません。私なら悔いを残したくありません。一日一日を心残りのないように生きて行きたいと思いました。
- ・冷静に事実を受け入れられるよう、まずは落ち着くことです。それから物事に対処すべきだと思います。
- ・どうすればいいかわからないけど、国が被害者の事をどうカバーするかが大きな問題だと思う。そのためには、被害者でない人にも協力を得て、それについて主張していく必要があると思う。
- ・国や自治体が事件にもっと関心を持ち、犯罪被害者にもっと協力して事件解決の為に働きかけるべきだと思う。
- ・私は二次被害に何か起こり何を改善すればわかりません。こういう事は当事者にしか分からないことが多いと思うのです。
- ・マスコミは伝えることが仕事かもしれないが、相手の気持ちを考えて行動すべき。
- ・これからもうっそう良くなる様に地道な活動を続けて行く事が大切だと思います。
- ・自分がいつ被害者になるかわからない。だからこそ署名活動に自分から進んで参加しなければいけないと思う。
- ・法を変える、国会で解決していくしかない。
- ・今後はもっと裁判に介入して真実をつきとめられ、しっかりした判決をしてもらいたい。
- ・国を変える必要がある。
- ・もっと憲法を変えるべき。
- ・一人一人の意識を高める。
- ・講演会などでもっと広めていかなければならないと思います。
- ・もっと被害者の立場になった行動をする。
- ・現状の日本司法を根拠から変える。
- ・被害者がもうちょっと意見を言えるようにする。
- ・冷静にならなくては、話しもできない。まず冷静になること。

(3) 今後も同様な講演会を開催した方がよいと思いますか？

回答

- ・啓発活動は行政の怠慢を払拭するためにも必要であり、受講者の自己啓発のためにも有意義である。
- ・辛いでしょうが、続けてほしい。
- ・講演を繰り返すことは、時が経ちようやくできた瘡蓋を剥がし、辛い心情を穿り出す繰り返しであると思います。講演される犯罪被害者の方々の痛みをとまなうものですが、多くの人が認知していくために続けていただきたい。
- ・した方がよいと思う。このような悲惨な現実があるということをもっとたくさんの方が知った方がよいと思う。
- ・できるだけ多くの所で講演会をやるべきだと思う。
- ・するべきだと思う。被害者にはそうなれないが、被害者の気持ちや現状を知った上なら加害者にならないよう出来ると思うから。
- ・今後もしていったほうが良いと思う。
- ・テレビで事件をみているだけではなにもわからないし、実際に聞いてみると身近に思えたりするから。
- ・私もですが、こういう事実を知らない人も多いと思うので、今後も講演会を開いた方がよいと思います。
- ・被害者の家族の方々が辛いのなら、したほうが良いと思います。
- ・知らないことが多かったので、とてもいい講演だったと思う。
- ・事件を忘れないためにも講演会を続けてほしいです。
- ・今後このような事が起こらないようにするためにも講演会を開催したほうがよいと思います。
- ・開催した方がよいと思います。ですが、伊藤さんは私たちには当事の苦しい思いや今も苦しい思いを伝えて頂く事で、つらくならないのかどうか不安になりました。
- ・講演がどれほどの影響があるかはわからないが、やることに少しでも意味がある以上はやった方がよいと思う。
- ・少しでも多くの方が、今回のような講演を聴いていけば、もし犯罪被害の当事者になっても、落ち着いて行動できると思います。
- ・今回の講演会をこれから先も続けてもらって、私のように何も知らなかった人に教えてほしいです。知れば変わると思うからです。
- ・講演を開催することによって、司法が変わっていけば良いと願います。
- ・正直、知らないことだらけで、そういう人が多いと思います。講演会をして、より多くの人に知ってもらうために開催してください。
- ・開催した方がよいと思います。
- ・はい。たくさんの人達に今の現状を知ってもらい、事件を起こりにくくしたり、起きてても、そういう事を知ってもらっていることで、自分には何が出来るのかわかるようになると思います。
- ・今までの司法と、これからの司法の違いを知ることができるから、行った方がよい。
- ・開催した方が、少しずつでも人の気持ちを動かせると思う。
- ・実際に体験していることだし、命の大切さを知ってもらうために続けた方がよい。
- ・再びしてほしいと思いました。
- ・自分の知らないことがまだまだあるので、講演会を通して様々なことを知っていきたい。
- ・裁判官、弁護士、政治家を対象に、金儲けにとらわれず、人間本心で聴いてもらう。人形劇でやるよりも、寸劇化またはドラマ化した方がよいかと思う。
- ・被害者が受けてきたことが分かり易いので、これからも続けて下さい。
- ・わかりやすく、よかった。人形劇だったので全体の状況ははっきりしていて、とてもよかった。こういった講演会は続けた方がよいと思う。

(4) 講演を受けて、疑問に思ったこと、わからなかったこと？

回答

- ・なぜ日本はこんな法律で、法治国家を名乗っているのかわからない。
- ・裁判はどれくらいの期間行われるのかと思った。被害者の声はしっかり聞いてもらえるのかなと思った。
- ・国はなにを考えているのかまったくわからなかったです。
- ・日本の裁判の不公平さがわからなかった。
- ・なぜ日本の裁判はそんな理不尽なんですか？なぜ国は、それをかえようと思わないのか。
- ・なぜ犯人は、勝手な気持ちで人の命を奪うのかわからない。
- ・加害者の待遇がよすぎると思う。
- ・なぜ犯人は、嘘をつくのかと思いました。
- ・司法解剖など国民がおかしいと思う制度があることに意義を持ち、訴えているのに、なかなか変わってこなかったのか。私も同じ立場だったら冷静さを亡くし、憎しみの感情にとらわれてしまうと思います。まともな人間であれば、同じ気持ちになると思います。
- ・「犯給法」がどういったものなのか、今ひとつわからなかった。
- ・お金のこと。
- ・被害者の方々の気持ちについては、まだまだよくわかっていない。
- ・人間という動物は何で金儲けと法律というものを重視するのだろう。人間の本心を何故公に出さないのだろう(裁判官、弁護士、マスコミ含め全員)

6 今回の講義の感想、自分の経験と合わせて気づいたこと

回答

- ・伊藤さんの飾らない話し方と実際に何が必要かなど現実をお話いただき、有意義であった。
- ・以前から、加害者に甘く、被害者には厳しい裁判だと思っておりましたが、講演を聞かせて頂き、びっくりしました。
- ・裁判で判決が出て、賠償金を支払わない加害者に対して、さらに心労を重ねておられる被害者もあると聞いたことがあります。加害者にも人権はあり、それを護っていかねばならないことは十分理解しますが、まず被害者へのケアが第一に優先されるべきだと思います。加害者の権利が被害者のそれよりも必要以上に手厚く保護されている日本の現状には情けない思いがします。
- ・今回の講義を聴いて、被害者の受けている気持ちや今でも改善されていないことがあると知った。これを知っても今だに自分の事ではないと感じる。でも、いつ自分が被害者になるかわからないことが数多くあり、自分が加害者になることもあるかと思うと少し怖しい、どうかならないようにと心から思った。だから、これからの人生を変な道にいかないようにと心から思う。
- ・マリオネットの劇はすごくよかったですとおもいました。日本の現状を表現できていてわかりやすかったし、マスコミはしつこく聞いてくるし裁判ではもっと被害者のことを考えてほしいと思いました。日本の政治が変わってほしいです。
- ・私の祖父の妹さんは、今で言うストーカーに殺されたそうです。私はまだ生まれていませんでしたし、祖父から話でしか聞いた事はないので、今いち実感はわかりませんでした。ですが伊藤さんの話を聞かせて頂いて、みなさんの無念さをよりリアルに感じる事ができました。有意義な時間をありがとうございました。
- ・こういう事件がおこると、もうその人の人生はまったく違うものになると思うのでこういった事件が起きないのが一番いいと思う。しかし、もし起きたときなどはもっと被害者に良くてもいいと思う。
- ・今後、こんなことが起きないためにも犯罪を許さず厳しく取り締まり、犯罪がない安全で平和に生活できるようにしてほしいなと思った。
- ・僕も居眠りで事故した事があるが、この話を聞いて絶対してはいけないことをしてしまったと思う。人を巻き込んだら、被害者に大変な思いをさせてしまうので、絶対してはいけないと思った。
- ・私もお母さんから「車の運転は気をつけや！気をつけや！」って毎日毎日言われて、うるさいなんて思っていたけど、事件が起ってからでは遅いし、親が私のことをすごく心配してくれているんだな、もっと親の言うことを聞こうと思いました。伊藤さんこれからも頑張ってください。
- ・こういう犯罪が起きている今、自分の身の回りでこのような事件が起きた時どう対応していけば良いかわからない。やれる事は、冷静になって対応するしかないと思う。人の命はその人だけのものではないから命というものを大切にしないといけないと思いました。
- ・自分がもし犯罪被害者の立場になったと考えれば、冷静に判断することが出来ない気がする。犯罪のおこらない世の中であってほしいと思う。
- ・なぜ、被害者にはある程度の権利がないのかわかりません。犯罪を犯した人がわるいのに、なぜ犯罪者に弁護人がつけられるのか腹立たしいです。人を殺すような犯罪者は死んでしまえばいいと思います。それから最近多くなった飲酒運転の人達とかも裁判をせずに極刑にすればいいと思った。
- ・被害者の家族の辛さがすごく伝わってきた。自分は、もう車が乗れるようになったので事故などを起こさないようにしたいと思う。今回の講義で被害を受けた側のたくさんの辛い思いが少しでもなくなるようにしたいと思う。
- ・今回の講義を聞いて思ったことは、昔の裁判所がここまで被害者にひどい態度をとっていた事にびっくりしました。今の裁判所があるのは被害者の方達が頑張ってくれたおかげだという事にもびっくりしました。今もさらに裁判所をよくするために活動されていてすごいと思いました。伊藤さんの話を聞いているととても悲しみが伝わってきました。こんな悲しい思いをする人達いなくなることを願います。
- ・おかしな日本だと思った。悪意をもって人を殺してなんで生きられるねんと思ったし、裁判をするのもおかしいと思う。なぜ被害者の人が苦勞をしないといけないのかとも思いました。いつ自分にふりかかってくるかわからないし、今日この話がきけてよかったと思いました。
- ・犯罪に遭ったら犯罪にあった本人だけではなく被害者の家族や周りの人もが苦しんでいることがわかった。
- ・テレビをみて、思っていたことだけけど今日の講義で、やっぱりこの世の中は加害者にやさしいなと思いました。でも、今すぐにそれをどうにかする事はできないと思う。だから少しずつでも、良い世の中になるように努力していくべきだと思いました。
- ・テレビ等で殺人事件を見る度に、親と話をしている。加害者は常に罪が軽くなるようにしようとする。被害者側の望む結果にならない。無期懲役、無期に社会に出られるのが許されていない懲役ですら年数をたてば社会に出られるのはおかしいし、人を殺しておいて普通に社会に戻るのあまりにもおかしいと思う。加害者の命の一つごときで殺した相手は帰ってこないから、加害者の一生を被害者の遺族へ国へと従事すべきで社会復帰など許さないと常々思っています。

- ・今まで漠然とこの国の法律はおかしいと思ってはいたけど、そのおかしさがやっと見えてきたような気がする。このままの日本では歪なまま進みいつか壊れてしまうような気がする。もしかしたら、もう壊れているのかもしれない。
- ・今回の講義で実際の被害にあわれた家族の人形劇を見たが、ものすごくリアルにやられていて本当に被害者の家族の気持ちが、心に突き刺さるように感じられて、ものすごく印象に残った。
- ・私は今回のお話のことは新聞やニュースでしか見たことしかありませんでした。正直言って他人事として考えていました。しかし、今回のお話を聞いて被害者の方の苦しみや日本の裁判制度の実際を知ることができました。
- ・犯罪被害者の悲しみや辛さなどを心から感じることができました。国や司法を信じて生きてきた人達への裏切りや失望といったものが伝わってきた気がします。良い講義を聴くことができて良かったです。ありがとうございました
- ・今回の講義を聞いてわかったことがあります。第三者の立場から見た事件は事件でしかなく、その後も起きる苦しみや悲しみは全くわからないということです。これは私が単に物事を深く考えないからなのかもしれないです。しかし、私のような人はもっといるだろうと思います。今回の講演を聞くことが出来て、私は考えを変えることができました。ありがとうございます。
- ・私は被害者になったことはありません。そんな私でも被害者の気持ちに同感するんです。お金のうつり方はわかりませんが、一人の人として全ての人に同じ気持ちを持ってもらえることを願っています。司法解剖で国の役に立つ情報が得られるかもしれませんが、けれど一人の人の体を、また傷つけてしまうということの重さも考えてもらいたいです。また、その家族は、どういう気持ちなのかわかっていないはずはないと思いますが…。私自身、制度がわからないんですが、この司法解剖というものは廃止してもらいたいです。被害者の傷つく気持ちを感じました。
- ・裁判は誰のために行うのでしょうか。調書も見ることができず、見るにはお金を払わなければならないなんて、おかしなことばかりです。被害者家族にこそ知る権利があるのではないですか。一番悪いのは犯人です。しかし、日本の法律自体不審な点が多いと思いました。
- ・免許を取り、車を運転することが多くなりました。いつ自分も加害者になるかわかりません。より一層注意して乗りたいと思います。
- ・今回、1時間半、話と人形劇を見させてもらい、色々新しいことを知った。だが、被害者遺族の気持ちを汲み取るには、あまりにも短かったと思います。遺族の人達は僕たちの考えているよりもっと色々な思いがあると思います。僕たちができることは、もっといっぱいの人にこのことを広める事だと思います。 本当にありがとうございました。
- ・自分が事故にあった時も、だいぶもめた事があった。自分は死んだわけではないが、家族の悲しみは相当なものだと思います。法律は国民のためであるものと思っていましたが、実際は全く違い、驚きました。法律は国民のためにあるべきだと思います。なので変えられるのであれば、どんどん変えていくべきだと思います。今回知らないことだらけだったので、この講義はいい勉強になりました。また機会があれば話を聞きたいと思っています。
- ・以前にも個人的に被害者のお話を聞いたことがある。時間とともに消えていってしまっていた。次々と事件が起こる世の中では仕方ないことかもしれないけれど、何事にもポジティブに考えるようにしていけば、自分でも消化して行けると思う。
- ・事件や事故で裁判を行った時に、いかに被害者の意見が反映されるようになれば、より良い裁判・判決が行えると思う。
- ・人の命は交換することも元に戻すこともできない。普段から気をつけるべきだと思った。犯罪の被害に今まで遭ったことがないので、そうなった時のことはわからなかったが、一つ知識が増えました。これからも、またこのような講義を聞きたいと思いました。
- ・自分の知っている人が死ぬということがまだ無いため、被害者の気持ちについてよくわからなかった。しかし、ニュースなどで放送されている事件などを見た時の考え方がおおきく変わると思います。伊藤さんの話にとっても興味が出てきて、とても良い時間になりました。これからも活動ががんばってください。応援しています。
- ・知らないことばかりだったので、大変勉強になりました。事件についてはマスメディアを通してしか知ることがないので、遺族の現状を知ることが出来ました。明日は我が身になるかもしれないと思うと、加害者・被害者どちらになっても、つらい結果しかないと思います。
- ・被害者の立場に立つと、裁判官・弁護士・マスコミの金儲けだけを考えた行動・言動に愕然とした。この講義で一つの案を考えてみた。裁判官や弁護士は職業として扱うのではなく、無報酬のボランティアにする。裁判員制度の中でも無報酬にしてしまうこと。法律にとらわれない人間本来の心で裁判を行う。試してみる価値はないだろうか。「殺人に極刑は当たり前」猶予を認める必要なしである。
- ・自分も高校の時、連れ(年上の友人)が死にました。一ヶ月前まで笑顔で話していた連れが次に会った時は棺桶に入っていました。今でも時々夢に出てきます。今、自分はその連れの年を過ごしています。命を大切に、生きていきたいと思っています。
- ・実際の事件、被害に遭われた家族の生の話を直に聞くことができて、話に重みがあった。